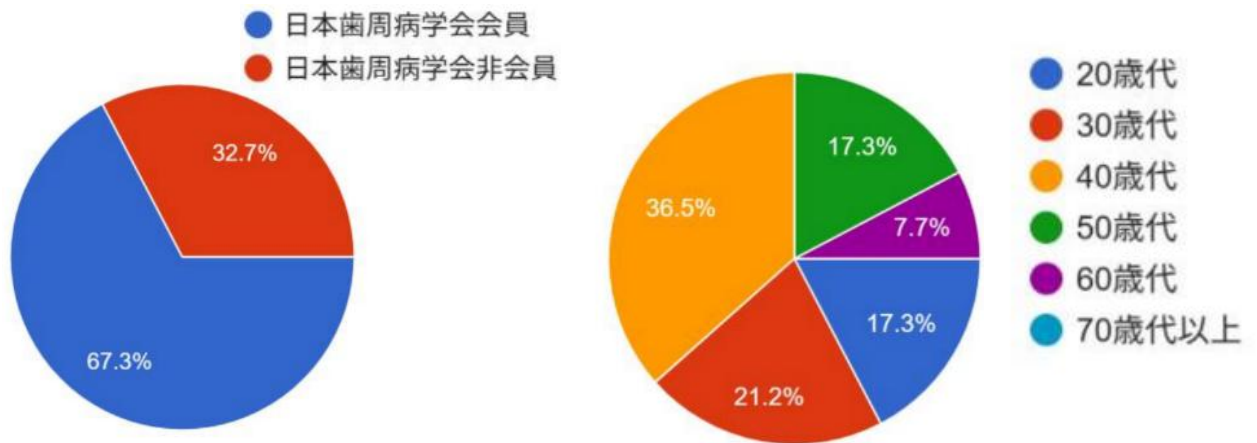


日本歯周病学会 第113回 歯科衛生士教育講演会 報告

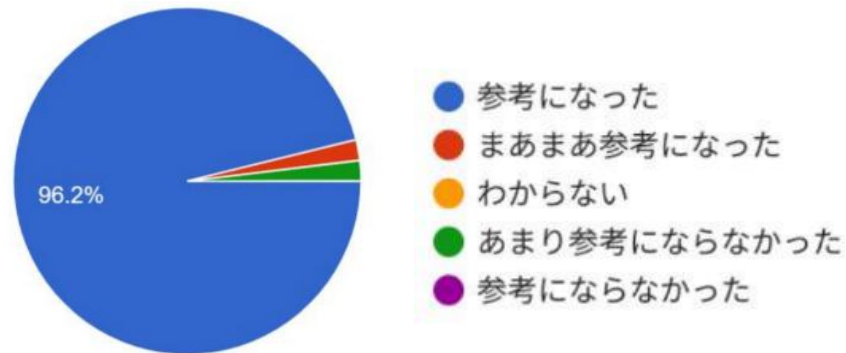
1. 研修会名：日本歯周病学会第113回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会第5次生涯研修）
2. 主 催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協 力：一般社団法人 日本歯科衛生士会（秋田県歯科衛生士会）
4. 日 時：2025年11月16日（日）10:30～15:30
5. 場 所：①ハイブリッド開催（対面開催+Zoomウェビナーを使用したライブ配信）
②あきた芸術劇場ミルハス 小ホールB、Web配信
所在地：秋田県秋田市千秋明徳町2-52
6. 演 題：1) 「咬合と力が与える歯周組織への影響～歯科衛生士として知っておきたい基礎知識～」
2) 「患者に“続ける理由”を与えるメンテナンス ～再評価からリスク管理まで～」
7. 講 師：1) 杉原 俊太郎（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）
2) 塩浦 有紀（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 研修単位：①、②両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
①日本歯周病学会会員の場合
・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8単位）
・更新時の生涯研修単位（10単位）
②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合
・第5次生涯研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）
Ⅲ．口腔衛生指導と生活習慣 指導
B. 行動変容に必要な知識と技術（カウンセリング等） 2単位
Ⅴ．歯周治療の補助に必要な知識と技術
A. 歯周基本治療について ・目的、治療の実際、咬合治療、抗菌療法など 2単位
9. 教育講演： はじめに、秋田県歯科衛生士会の村田 薫会長より挨拶があった。第1部は杉原委員より「咬合と力が与える歯周組織への影響 ～歯科衛生士として知っておきたい基礎知識～」の講演が行われた。過度な咬合力が歯周組織に及ぼすメカニズムに加え、日々の臨床において口腔内所見から「力のリスク」に気づき対応するための実践的な視点が解説され、力のコントロールの重要性を再認識する内容であった。
第2部は塩浦先生より「患者に“続ける理由”を与えるメンテナンス ～再評価からリスク管理まで～」が行われた。再評価を起点とした個別のリスク管理を中心に、患者自身が納得してメンテナンス（SPT）を継続できるようなコミュニケーション術や指導例が紹介され、明日からすぐに生かせるアプローチが多数共有された。
【塩浦委員の講演】
基礎知識のアップデートから患者に寄り添う実践的な手法まで網羅されており、日々の診療の質向上に直結する非常に有意義な講演会となった。
10. アンケート結果について
当日の参加者は会場参加50名、web参加65名の計115名であった。アンケートの回収は52件であり、その結果は以下の通りである。
①参加者の属性
・学会所属：日本歯周病学会会員が67.3%、非会員が32.7%であった。
・歯科衛生士会所属：日本歯科衛生士会会員が50%、非会員が50%と半数ずつであった。
・年代：40歳代が最も多く36.5%、次いで30歳代(21.2%)、20歳代・70歳代以上(各17.3%)、50歳代(7.7%)の順であった。
・就業先：診療所勤務が73.1%と大半を占め、病院勤務が17.3%であった。
・認定歯科衛生士：日本歯周病学会認定歯科衛生士であるとの回答は23.1%であった。一方で、「今後、日本歯周病学会認定歯科衛生士を取得する予定がありますか」という質問に対しては、回答者40名中67.5%が「はい」と答えており、認定取得への関心の高さが伺えた。
・参加地域：秋田県(19.2%)からの参加者が最も多かったが、大阪府、岡山県、福岡県など幅広い地域からの参加が見られた。





②講演の満足度と感想

- 講演内容について、96.2%が「参考になった」、と回答し、高い満足度であった。自由記述の感想では、「普段把握が乏しかった咬合について学べ、明日からの臨床に活かしたい」「実際の症例を通した説明がわかりやすかった」「患者の人生のお手伝いができることに、衛生士としてモチベーションが上がった」など、臨床への直結や意欲向上に関する代表的な声が見受けられた。



11. 教育講演を終えて

今回の教育講演会では、秋田県の歯科衛生士の皆様の活発な姿勢と、日々の臨床に対する熱心な思いに直接触れることができ、大変有意義な機会となった。

アンケートに寄せられた多くの声からもその熱意が伝わってくるものであり、今後もこうした学びの場を共有しながら、地域における歯科保健医療の向上へと共に繋げていければ幸いである。



【秋田県歯科衛生士会幹部の方と集合写真】